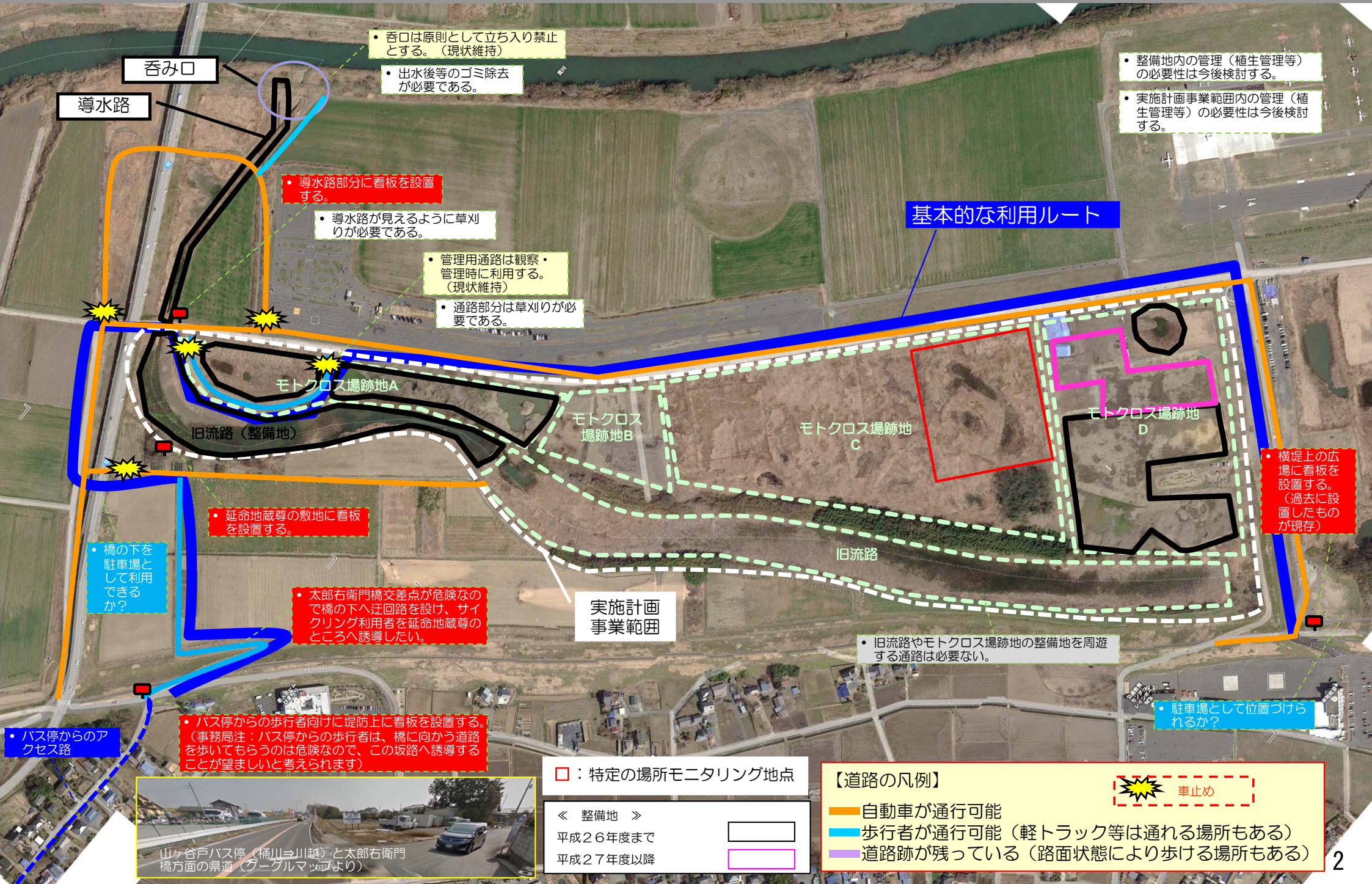


残りの整備（通路・看板）について

上池の通路・看板整備について



④3) 呑口

- ・呑口は構造物であり管理瑕疵の可能性があるので、立入禁止措置が必要である。
- ・呑口は、案内者がついていない条件では見せるようにはしない。
- ・呑口はゴミが溜まっており、除去が必要である。
- ▶ 昔の呑み口の方が本川の流れに対して鋭角に合流しているため、ゴミがたまりづらと思う。

④2) 導水路

- ・呑口までは本田航空の占用道路から遠いため、導流工を説明する場としては、導流工と本田航空占用道路の交差部をしっかりと草刈し、常に水路が見えるようにすべき。また、説明看板が必要。

④1) 管理用通路、旧流路、モトクロス場跡地A

- ・この場所に通路は必要であり、維持したい。
- ・通路は観察会・学習コーナーなどで利用したい。
- ・雑草が生えないような道路も考える必要がある。例えば、環境にやさしい舗装。ただし、本当の管理のためと人を入れるためのもの。
- ・人や車が自由に入れるようにすると、不法投棄されたり外来種が侵入しやすくなるので注意したい。
- ・整備地内の管理は、当面はモニタリング結果を見ながら必要性を考える。
- ・通路周辺のハリエンジュや外来種の草本、クズ・カナムグラは早急に除去したい。クワも管理したい。

③モトクロス場跡地C

- ・ヤナギ類は湿地の植物であり、鳥も利用する良好な自然の要素なので、このままで良い。もし過剰になったらときに伐採すれば良い。
- ・現在のオギ群落へ、旧流路から水を入れることで、より湿潤化を図り、ヤナギを抑制することは考えられる。
- ・コウノトリのような鳥類が採餌しやすい湿地が欲しいが、ここはオギ群落で使えない。モトクロス場跡地Dの整備地の様子を見たい。
- ・オギ群落のところを一度、野焼きをしたい。
- ・旧流路河岸のタケ類を管理したい。在来種の河畔林は下流端に分布し、数個体がタケ類に混じって点在するので、それを残してタケ類は除去したい。

②モトクロス場跡地D (H25整備：見本池)

- ・見晴台の高さは、50cmではやはり低いのでもう少し高くなった方が良いが、あまり高いと安全対策も必要になってくるので、高さ設定には注意が必要。
- ・「見本」として整備したが、現状はオギの繁茂が著しく、見晴らしは良くない。ここを見せることにこだわらず、H25-26の整備範囲が拡大したので、そちらと旧流路を展望しやすいようにした方が良い。

呑み口
導水路

④

管理用通路

柵

柵

試験地の柵

②

見晴台

柵

モトクロス場跡地A

モトクロス場跡地B

モトクロス場跡地C

モトクロス場跡地D

旧流路

実施計画
事業範囲

⑤1) 旧流路

- ・延命地蔵尊のところは整備地の眺めが良く、樹木の陰であることや地元の方が管理されていることから草本が無く入りやすいので、展望場所として利用したい。
- ・人を案内するのに良い場所であり、事業概要の看板が欲しい。
- ・水辺に近づきすぎると鳥に影響するので、整備・利用にあたっては適切な離隔距離の設定が必要である。
- ・農業法人の関係者に協議会への協力を呼びかけたい。

⑤2) 太郎右衛門橋

- ・バス停からの歩行者向けに、堤外に降りる道路の入口に看板が欲しい。

●各整備地に共通

- ・土木的な意図を持って整備した場所には、それを説明する看板が必要である。
- ・ヨシやオギ群落を維持するためには、クズやカナムグラなどのつる性草本の管理が必要である。

①横堤付近、旧流路、モトクロス場跡地D (H25-26整備)

- ・横堤の突端に昔のコンクリートの基礎があるが、ここにのぼるだけでも眺望が良くなる。なんらかの展望施設を設置して欲しい。現在上池で工事をやっている古郡建設の仮設プレハブ小屋の様なものでも良いし、四阿なども良いと思う。
- ・看板があった方が良い。
- ・トイレが欲しい。三ツ又沼ピオトープにあるような簡易なものでは衛生的に保たれないので、しっかりしたものが欲しい。場所は堤内でも良い。
- ・旧流路やモトクロス場跡地D (H25-26整備)の整備地を周遊する通路は必要ない。
- ・伐採試験中のシンジュは、整備地に近いので根絶させたい。
- ・モトクロス場跡地Dは、旧流路との接続はせずに異なる環境のまましておく方が多様性が高まると思う。普段は地下水位に応じた状態とし、それ以外は高水敷が冠水する規模の出水時に水が入れば良い。

□：特定の場所モニタリング地点

《 整備地 》

平成26年度まで

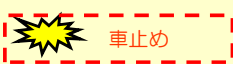
平成27年度以降

【道路の凡例】

— 自動車が通行可能

— 歩行者が通行可能 (軽トラック等は通れる場所もある)

— 道路跡が残っている (路面状態により歩ける場所もある)



中池の通路・看板整備について



【確認ルート・地点】

◆ 止まって確認 — 歩いて確認

③旧流路河岸付近

- ところどころでは旧流路の水面が眺められるような整備をしたい
- 看板が欲しい
- 旧流路の河岸沿いの通路ではゴミが多い。大きなゴミや大量のゴミは、通路が車で入れる状態だった頃のもので、現在はこうしたゴミは減っていると思われる。新しいゴミではペットボトルなどが多い。
- 年に1回くらいゴミ拾いイベントをしたい。
 - 荒川クリーンエイドに参加して行う方法がある。
 - 地域の人、行政、企業、学校を巻き込んで協議会主催で行い、拾ったゴミは自治体に処理してもらおうが良い。
- 旧流路の河岸部ではササ・タケ類がかなり増えている。結果としてシンジュの侵入抑制になっているかもしれないが、注意が必要である。管理方法を考えたい。
- ところどころでオオバクサやシンジュが増えているところがある。これらの場所はかつては明るい良い雰囲気の出発点であった。このような部分の改善を考えたい。
- 休日は対岸の特定の場所の音がかなり聞こえるのが課題である。

④実施計画範囲の中央の通路

- 両側にシンジュが生育しつつある。早めに対処したい。

⑤実施計画範囲の外の通路

- 協議会での管理は難しいため、太郎右衛門地区の散策路としての位置づけだけをする。

● 全体に共通

○ 通路・看板の整備

- 中池の実施計画範囲は太郎右衛門地区の自然を知ってもらうために面的に良い空間であり、散策するのにとても良い。現在の通路を活かすことができる。
- 現状でも歩ける状態の通路になっているので、杭を打ってロープを張るだけでも通路らしくなると思われる。チップを敷いても良いかもしれない。
- 少し広い場所の方が歩きやすいので、狭いところは広げた方が良いかもしれない。
- 旧流路付近や堤防側の通路入り口付近には看板が欲しい。
- 湿地（池）などに名前をつけた方が管理上も観察等の利用上も良いと思われる。

○ 通路・植生の管理

- 一帯がサバイバルゲームで利用されているようであり、管理のあり方を考える必要がある。
- キツタが絡まった木が多い。倒木に至るようならキツタは排除したい。
- カナムグラ・クスが増えているところではオギが倒されている。火入れしたいが、飛行場に近いため難しいと思われる、別な管理方法を考えたい。

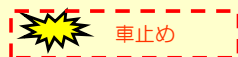
実施計画
事業範囲

①②横堤・堤防付近の通路入り口
• 看板が欲しい

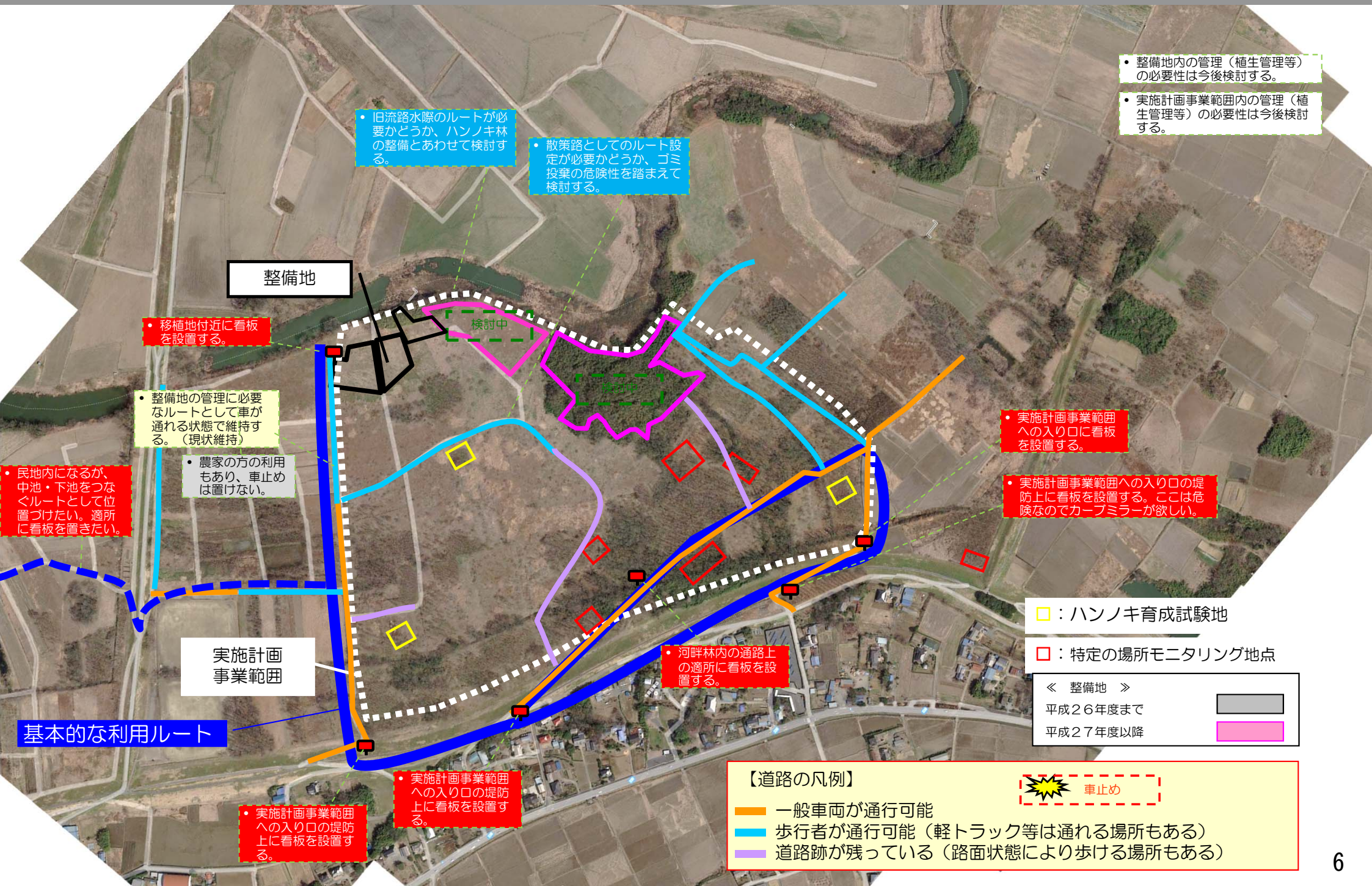
□：特定の場所モニタリング地点

【道路の凡例】

- 一般車両が通行可能
- 歩行者が通行可能（軽トラック等は通れる場所もある）
- 道路跡が残っている（路面状態により歩ける場所もある）



下池の通路・看板整備について



- 整備地内の管理（植生管理等）の必要性は今後検討する。
- 実施計画事業範囲内の管理（植生管理等）の必要性は今後検討する。

旧流路水際のルートが必要かどうか、ハンノキ林の整備とあわせて検討する。

散策路としてのルート設定が必要かどうか、ゴミ投棄の危険性を踏まえて検討する。

整備地

移植地付近に看板を設置する。

整備地の管理に必要なルートとして車が通れる状態で維持する。（現状維持）

農家の方の利用もあり、車止めは置けない。

民地内になるが、中池・下池をつなぐルートとして位置づけたい。適所に看板を置きたい。

実施計画事業範囲への入り口に看板を設置する。

実施計画事業範囲への入り口の堤防上に看板を設置する。ここは危険なのでカーブミラーが欲しい。

□：ハンノキ育成試験地

□：特定の場所モニタリング地点

《 整備地 》
 平成26年度まで
 平成27年度以降

基本的な利用ルート

実施計画事業範囲

河畔林内の通路上の適所に看板を設置する。

実施計画事業範囲への入り口の堤防上に看板を設置する。

実施計画事業範囲への入り口の堤防上に看板を設置する。

【道路の凡例】

- 一般車両が通行可能
- 歩行者が通行可能（軽トラック等は通れる場所もある）
- 道路跡が残っている（路面状態により歩ける場所もある）

車止め

③整備検討中の場所
 ・このあたりは牛フンが多くまかれた場所なので、シンジュやオオブタクサなどが多く出て来ている。
 ・火入れを試験的にやってみたいが、地元の合意が必要であり、協議会を通した努力が必要である。
 ・オギが生えているところは牛フンがまかれた場所ではないので、そのまま維持したい。
 ・ゴミが多いのでゴミ拾いをイベントで実施したい。ゴミ拾いは草が枯れている時期に実施する必要がある。
 ・竹林も拡大しているようである。
 ・シンジュの巻き枯らしを実施した木には、外来種であるため試験的に巻き枯らしを実施していることがわかるようにしておく必要がある。他の人が在来種に同じことをしないようにする。

②ハンノキ移植地・試験掘削地
 ・景観が良いので水際に散策路が欲しい。看板が欲しい
 ・散策路をつくる場合、ゴミを捨てられないための工夫がいる。車がはいれないようにする車止めの設置や、看板を多めにするなどすれば、少しは抑制効果があるかもしれない。
 ・シンジュが多いのが問題である。町に協力を呼び掛けたい。

●全体に共通
 ・旧流路沿いや草地、樹林地、水路沿いを通る散策路が欲しい。
 ・散策路の整備については、生き物、ゴミ、人とのあつれきのバランスについてよく議論して進める必要がある。

⑤整備検討中の場所、事業範囲外
 ・車が入れる所まではゴミが多く、入れないところはゴミが少ない。
 ・道は車止めなどをしてゴミ捨てに利用されないようにしたい。
 ・散策路は木のチップ等で車が入れないように見せかけると良い。
 ・維持管理に必要な時にだけ車を入れるようにしたい。
 ・農地を持っている人にカギを管理してもらってはどうか。

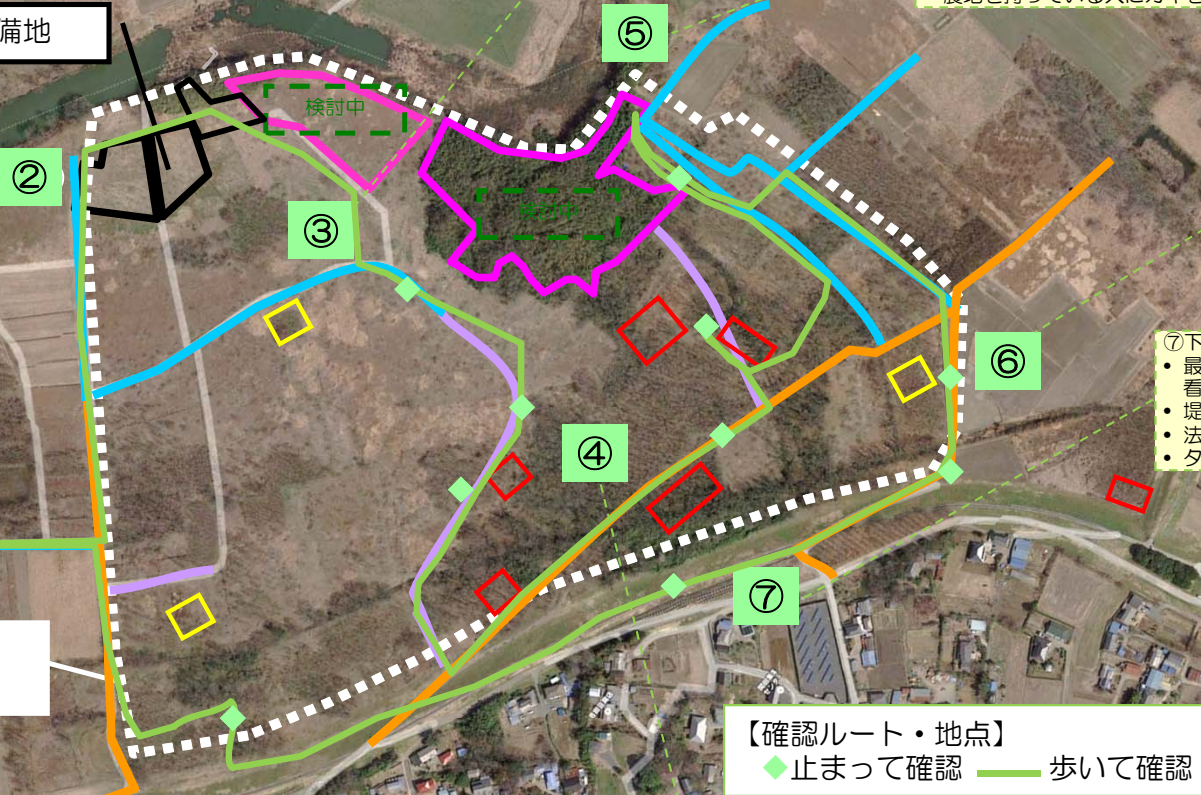
⑥ハンノキ育成試験地③、事業範囲外
 ・下流の田んぼはコウノトリに良い。
 ・遊水地にしてはどうか。
 ・自然再生地として良い。

⑦下池下流の出入り口
 ・最下流部の堤防の出入り口では、堤内側・堤外側のそれぞれに看板があると良い。
 ・堤防上は自転車が多いので、散策路のルートにはできない。
 ・法尻に歩けるところがあると良い。
 ・タケは放っておくと増える。堤防側にきている。

④特定の場所
 ・落ちて歩いて歩くのに良いルートである。
 ・中池の旧流路左岸側の特定の場所から発生する音はあまり聞こえてこないもので、その違いを踏まえたルートを整備したい。
 ・利用によって生物に影響を与えない配慮が必要である一方で、観察対象になりそうな「けものみち」などもあるので、活用できるものも検討したい。
 ・道の低水路側はハンノキ、堤防側は様々な樹種があって面白い場所である。
 ・ハンノキの林床にはノウルシが多かったが減っているようである。周囲のクワを切ると改善できるかもしれない。
 ・ルートとして整備するのであれば、古い木や周囲の枝は安全上切った方がよい。
 ・水路にゴミが多いが、これを無くせば良い雰囲気になる。水路沿いを歩けるようにすると良い。

整備地

実施計画
事業範囲



□：ハンノキ育成試験地
 □：特定の場所モニタリング地点

【確認ルート・地点】
 ◆止まって確認 — 歩いて確認

《 整備地 》
 平成26年度まで [Grey Box]
 平成27年度以降 [Pink Box]

【道路の凡例】
 — 一般車両が通行可能
 — 歩行者が通行可能（軽トラック等は通れる場所もある）
 — 道路跡が残っている（路面状態により歩ける場所もある）



【確認ルート・地点】

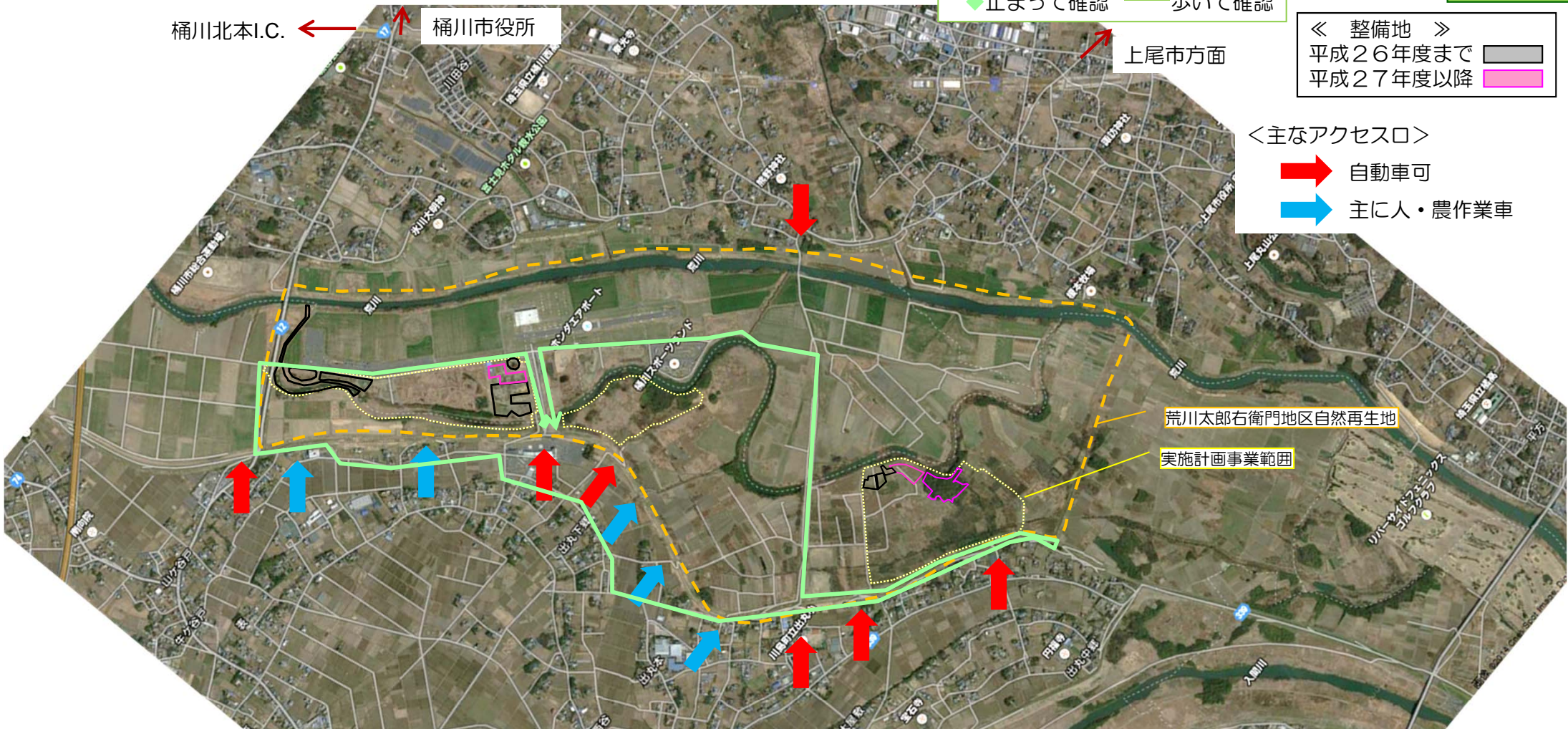
◆止まって確認 歩いて確認

◀ 整備地 ▶
 平成26年度まで
 平成27年度以降

◀ 主なアクセスロ ▶

➡ 自動車可

➡ 主に人・農作業車



川島町役場
川島I.C.

川越市方面

- 太郎右衛門地区の休日の利用状況
- 自転車の利用者が多い。午前中のため下流から上流に向かう人が多い。また、9時台よりも10時台の方が多い。平日は高齢者が多いが休日は若い人も多い。
- 休日はスカイダイビングの利用者が多い。
- 飛行場の見学で親子がいた。お子さんは就学前の小さな子だった。
- 中池の旧流路の左岸側の特定の場所から発生する音がかなり大きい。特に大きいと想定されるイベント開催時に計測しておく。
- 中池の旧流路の左岸側の特定の場所の外側の雰囲気は景観的に良くない。木を植えるなどして隠せると良い。
- 最近はセリ摘みの人が多い。
- 散歩の人は少ない。寒いせいかもしれない。犬の散歩の人はいたが少なく、多くの人はもっと早い時間帯か夕方になっているのかもしれない。
- 太郎右衛門地区の今後の整備
- 休日に限らないが太郎右衛門橋の横断部分が危険である。自転車が太郎右衛門橋の下をくぐるルートの整備を整備している埼玉県に働きかけたい。すぐは難しいので、当面は橋のところに自然再生の案内看板を置きたい。橋下のルートは延命地藏さんのところを経由するようにして、お地藏さんのところに説明看板があると良い。
- 近隣のバス停名を「太郎右衛門地区自然再生地前」としてもらえるようにバス会社に働きかけたい。
- トイレが欲しい。水防倉庫のそばに置けないか。
- 飲み物を販売すれば売れるのではないか。資金確保の手段になるかもしれない。
- 下池の堤防に竹林が迫っているため堤防管理の面で注意した方がよい。